*地域*で育ちあう 共生の教育に向けたアクションは

令和3年度長久手市総合教育会議

令和4年2月8日

一般社団法人ジェイス代表理事　武田信子

今日の会議は、市民一人ひとりが
共生という価値観を持って生き、
自然との共生、地域における共存、アートのある生活、多様性の尊重を旨とし、
自分ごととして実践できるアクションを自らすすんで始める
そんな街の実現のために長久手のこれからの教育を総合

征服ではなく

排除しない・されない

人生を美しくする

競争ではなく

多様性を祝せよ

やった方が人生が楽しそうだから

実現のために必要なこと

1 子も親もお互いに知り合う（自分自身を振り返る、相手の身になってみる）

2 地域の資源をフル活用する（今あるものを再発見し、使いこなせないか考える）

3 具体的なアクションにつなげる（小さなことでも第一歩に着手できるようにする

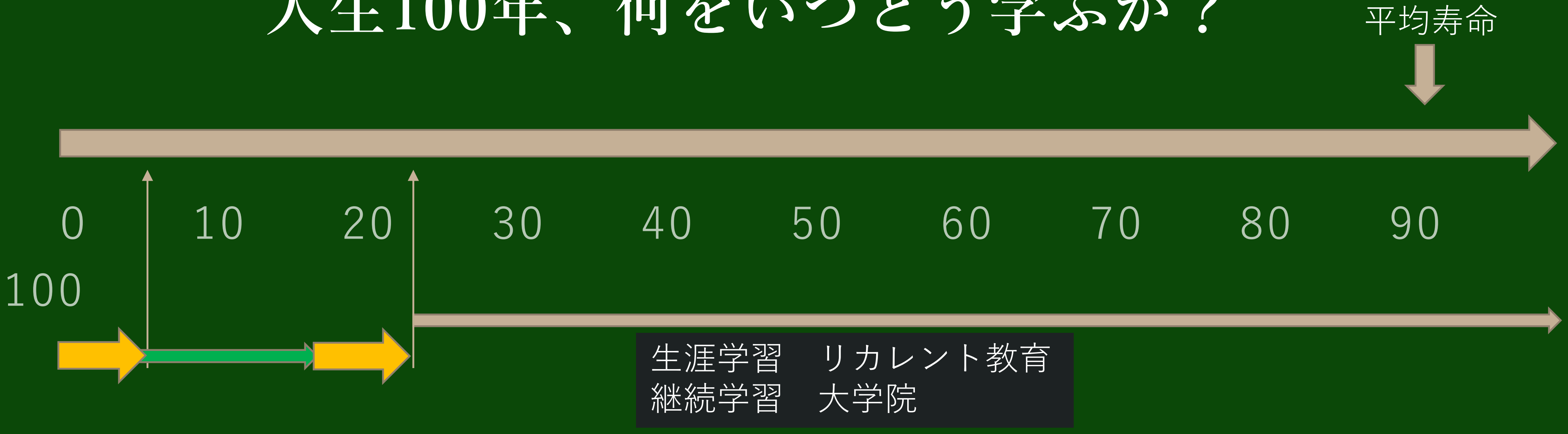
0歳から100歳まで地域の日常生活における生涯学習の保障

市民が日々の生活の中で
自分で、人から、状況・環境から、
学ぶことを楽しむ　無駄・雑談！

教育か学びか。学校か生活か。
自分の成長かみんなの成長か。
授業が終わってやった〜！か、えーもう終わり？か。

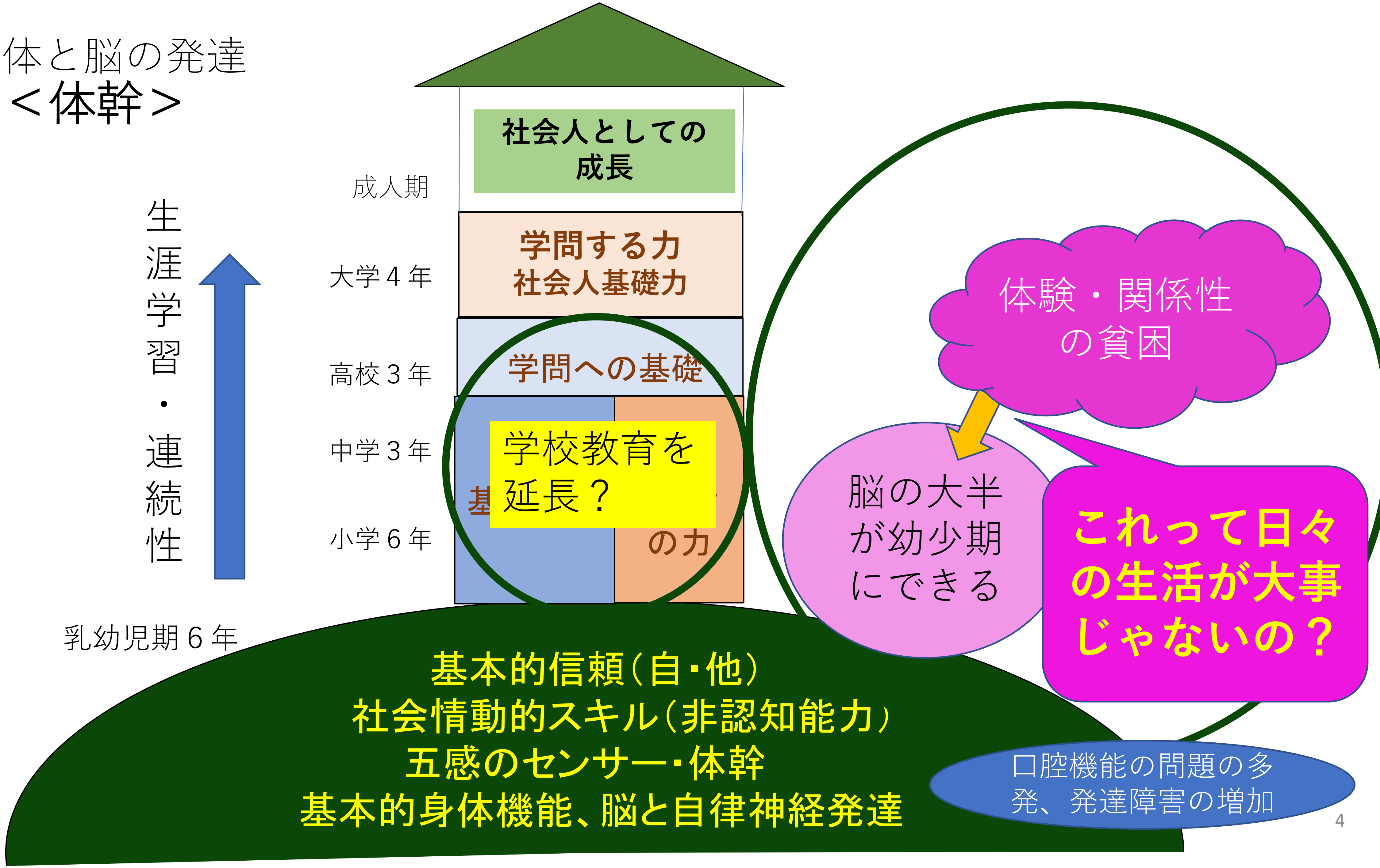
今日は、情報提供を中心とします。

人生100年時代をどう生きるか？
人生100年、何をいつどう学ぶか？



乳幼児期 若年者(教育)　中堅(仕事)　＜高齢者＞(老後)

心と体と脳の発達
＜体幹＞



生涯学習・連続性
成人期
大学４年
高校３年
中学３年
小学６年
乳幼児期６年
社会人としての成長
学問する力
社会人基礎力
学問への基礎
基
の力
学校教育を延長？
基本的信頼（自・他）
社会情動的スキル（非認知能力）
五感のセンサー・体幹
基本的身体機能、脳と自律神経発達
体験・関係性の貧困
脳の大半が幼少期にできる
これって日々の生活が大事じゃないの？
口腔機能の問題の多発、発達障害の増加

学校でなければできないこと。
学校でした方がいいこと。

- 新しい学校教育をどう作っていくか。
- 家庭と学校と地域のこの育ちにおける役割分担はどうするのがいいか。
- 家庭や地域における学びを自治体と市民組織がどう分担してサポートしていくか。

どの国の学校教育も
そのベースとなる価値観と文化に
基づいて行われている。

高校終了後、都会に行って地元に戻らない。自然が豊かでも乳幼児期からの育ちが保障されていない。

学習教材やリソースのアクセスは容易に

だから、海外の教育を取り入れても違ったものになりかねない。
何に気をつければいい？

新自由主義・先進国・OECDの競争的価値観で学校を作って、
いい学校になるか？

学びは必ずしも学校で生じるものではない。

その子どもの一生に必要な学びはどこにあるか

イエナプラン・モンテッソーリ・ダルトン・フレネ・シュタイナー・ニイル…

入学できた子どもたちだけが、成功の切符を手に入れ、その成功例を良い学校とよぶ。牽引役。移住促進。それ以外の子どもたちは？

リーダーシップ？
ビジネスパーソン？
金融教育？
抱っこも読み聞かせも家事もできない、サッカーはできるけれど名のない遊びができない国民の増加

あれもこれも必要、学校で教えようとさらに詰め込む⇒宿題という残業

今の日本で、
学校教育は何をしたらいいの？

それを考えるにあたって、
留意しなければならないこと

大人の価値観
→子どもたちの育て方

大人たちは日本で育って自

子どもの成長の保障を
支援する際の
大人の価値観はどうだろう？

⇒**子どもたちの育ちの現**

成功：学力　勤勉　道徳性　従順さ　リテラ…

問題：自殺　不登校　ひきこもり　うつ　いじめ
　　　学級崩壊…

大人たちは子どもたちに何を求め、どのような結果を期待してきたか。

大人たちが正しいと思って、子どもたちに教えてきたことは、正しかったのか。

教えが足りないから、もっと教えなければならないのか。

学校教育の成果を振り返ってみましょう。どうして・・・

- 子どもが自殺するの？
  （しかも学校の始まる4月11日、9月1日、コロナ明けに）
- 人をいじめるの？（幸せな人 … める？）
- 学校に行けない子どもが …
- 子ども食堂が必要なの …
- みんな自由に意見を言わ …
- 大人になっても投票しない …
- やりたいことがわからないの？
- スマホを居場所にしているの？
- 自己肯定感・自己効力感が低いの？

長久手で育った若者や大人たちは、どんなふうだろう？

これって
ウェルビーイングな
状態かなあ？

特別かわいそうな
子どもたちに起き
ている特殊な状況
？

日本の子どもたちは ウェルビーイングに生活できている と思いますか？

Well-being：身体的、精神的、社会的に良好な状態

毎日、夢と希望と生きる喜びを持って、感情豊かに、
周囲の人たちと一緒に、社会の一員として、
充実した毎日を過ごせている

学校教育・識字率

学校に行けない
子ども約20万人

災害

原発事故

基本的人権の尊重

世界一短い睡眠時間

受験戦争

戦争・少年兵

飢饉・飢餓

子ども食堂
パントリー

地雷・浮浪児

交通事故

歌舞伎町
買春

児童労働・搾取

ヤングケアラー

日本の多くの子どもたちは
虐待を受けている子どもたちと
同じ身体症状を呈していると解釈できる。

野井真吾　子どもの“からだと心”クライシス
かもがわ出版　*2021*

- 前頭葉機能：学級崩壊、キレる、よい子　の身体的背景
  自律神経機能：疲れた、だるい　の身体的背景
- 体温調節機能：低体温、通学意欲がない　の身体的背景
- 睡眠・覚醒機能：朝起きられない、夜眠れない　の身体的背景
- ネット依存：からだのおかしさ

子どものからだの調査2015　結果報告より
子どものからだと心連絡会議

表２「最近増えている」という実感の回答率・ワースト 10（保育所）

1979 年 (n=195)		1990 年 (n=223)		1995 年 (n=64)		2000 年 (n=154)		2005 年 (n=201)		2010 年 (n=90)		2015 年 (n=199)	
1. むし歯	24.2	1. アレルギー	79.9	1. アレルギー	87.5	1. すぐ「疲れた」という	76.6	1. 皮膚がカサカサ	77.6	1. 皮膚がカサカサ	65.6	1. アレルギー	75.4
2. 背中ぐにゃ	11.3	2. 皮膚がカサカサ	76.4	2. 皮膚がカサカサ	81.3	2. アレルギー	76.0	2. アレルギー	74.6	2. すぐ「疲れた」という	63.3	2. 背中ぐにゃ	72.4
3. すぐ「疲れた」という	10.5	3. 背中ぐにゃ	67.7	3. すぐ「疲れた」という	76.6	3. 皮膚がカサカサ	73.4	3. 背中ぐにゃ	72.1	3. 保育中，じっとしていない	60.0	3. 皮膚がカサカサ	71.9
4. 朝からあくび	8.1	4. すぐ「疲れた」という	63.3	4. そしゃく力が弱い	71.9	4. 背中ぐにゃ	72.7	4. すぐ「疲れた」という	68.7	3. 背中ぐにゃ	60.0	4. 保育中，じっとしていない	70.9
5. 指吸い	7.2	5. そしゃく力が弱い	59.4	5. 背中ぐにゃ	70.3	5. そしゃく力が弱い	64.3	5. 保育中，じっとしていない	68.2	3. アレルギー	60.0	5. すぐ「疲れた」という	67.3
6. 転んで手が出ない	7.0	6. ぜんそく	53.7	6. つまずいてよく転ぶ	54.7	6. ぜんそく	61.0	6. 床にすぐ寝転がる	64.2	6. 朝，起きられない	55.6	6. 噛まずに飲み込む	64.8
7. アレルギー	5.4	7. つまずいてよく転ぶ	52.4	6. ぜんそく	54.7	7. 保育中，じっとしていない	60.4	7. そしゃく力が弱い	58.2	7. 夜，眠れない	53.3	7. 夜，眠れない	57.3
8. つまずいてよく転ぶ	4.9	8. 転んで手が出ない	48.0	8. すぐ疲れて歩けない	51.6	8. つまずいてよく転ぶ	58.4	8. ぜんそく	57.2	7. ぜんそく	53.3	8. 自閉傾向	56.8
9. 保育中目がトロン	4.8	9. 指吸い	43.7	8. 朝からあくび	51.6	9. 朝からあくび	53.2	9. 転んで手が出ない	48.8	9. 体が硬い	47.8	9. 床にすぐ寝転がる	52.8
10. 鼻血	4.6	10. 朝からあくび	43.2	10. 転んで手が出ない	48.4	9. 転んで手が出ない	53.2	10. つまずいてよく転ぶ		10. 奇声を発する	45.6	10. 転んで手が出ない	51.8
										10. 自閉的傾向	45.6	10. つまずいてよく転ぶ	51.8

注：表中の数値は％を示す。

表３「最近増えている」という実感の回答率・ワースト 10（幼稚園）

1978 年	1990 年 (n=193)		1995 年 (n=115)		2000 年 (n=162)		2005 年 (n=188)		2010 年 (n=105)		2015 年 (n=104)	
	1. アレルギー	72.3	1. アレルギー	74.8	1. アレルギー	82.7	1. アレルギー	77.1	1. アレルギー	72.4	1. アレルギー	75.0
	2. 皮膚がカサカサ	68.0	2. すぐ「疲れた」という	73.9	2. すぐ「疲れた」という	76.5	2. すぐ「疲れた」という	72.9	2. すぐ「疲れた」という	65.7	2. 背中ぐにゃ	73.1
	3. すぐ「疲れた」という	57.8	3. 皮膚がカサカサ	68.7	3. 皮膚がカサカサ	69.1	3. 皮膚がカサカサ	66.0	3. 背中ぐにゃ	63.8	3. すぐ「疲れた」という	71.2
	4. ぜんそく	54.9	4. 背中ぐにゃ	56.5	4. ぜんそく	67.3	4. 背中ぐにゃ	64.9	4. ぜんそく	62.9	4. オムツがとれない	69.2
	5. 背中ぐにゃ	53.4	5. ぜんそく	53.0	5. 背中ぐにゃ	66.0	5. 床にすぐ寝転がる	60.1	5. 自閉的傾向	61.9	4. 自閉傾向	69.2
	6. 腹痛・頭痛を訴える	41.7	6. つまずいてよく転ぶ	52.2	6. 保育中，じっとしていない	59.3	6. ぜんそく	59.6	6. 皮膚がカサカサ	61.0	6. 保育中，じっとしていない	63.5
	7. 転んで手が出ない	41.3	7. 朝からあくび	47.0	7. 転んで手が出ない	53.7	7. 発音が気になる	56.4	7. 保育中，じっとしていない	58.1	6. 発音が気になる	63.5
	7. つまずいてよく転ぶ	41.3	7. すぐ疲れて歩けない	47.0	8. つまずいてよく転ぶ	49.4	8. 保育中，じっとしていない	55.3	8. 発音が気になる	53.3	8. 床にすぐ寝転がる	62.5
	9. 朝からあくび	40.3	9. 転んで手が出ない	43.5	9. 腹痛・頭痛を訴える	48.8	9. つまずいてよく転ぶ	47.3	9. 床にすぐ寝転がる	50.5	9. 体が硬い	59.6
	10. 棒のぼりで足うらを使えない	39.3	10. 腹痛・頭痛を訴える	41.7	10. 朝からあくび	47.5	10. 体が硬い	46.8	10. 転んで手が出ない	46.7	10. つまづいてよく転ぶ	53.8
			10. そしゃく力が弱い	41.7							10. 皮膚がカサカサ	53.8

注：表中の数値は％を示す。

赤ちゃんの学び

主体的
探索的
自律的

シナプスがどんどんつながっていく。

360度の可能性を持って生まれてくる。
それを阻害する環境を
どう育つ環境にするか。

屋内と桁違いの情報量
五感の刺激

発達障害という概念の出現

- 人は誰でも生まれてきたときに、ある程度の脆弱性をどこかに持っている。
- 自然の中で育ちながら、バランス感覚を養い、五感を育て、不足部分を強化して、人とのコミュニケーションをとる中で、社会に適合していく。
- 脆弱な部分が育つ環境を与えられない場合、バランスを欠いた発達をせざるを得ない。
- したがって、そのような環境がなくなると、遺伝要因と環境要因の双方によって、多くの人がその社会でしたがうことができる暗黙のルールに従うことが困難となる。それを発達の（社会が生み出した）障害と呼ぶ。
- 30年ほど前までは、落ち着きのない子、コミュニケーションが苦手な子などと呼ばれていた。社会にはそういう子どもがいても、それなりの職業があって、それなりの役割があって、「地域コミュニティ」は多彩なメンバーで支え合って共同体を構成していた。
- でも、こういう人たちは、サラリーマンのような規格品にはなれないので、工業化社会では「遅れ，障害」とラベリングされた。親のせいではない、ということを強調するあまり、遺伝的なものとして治療放棄、固定化が進んだ。また、社会はより一層、障害を生みやすい方向に進んでいる。

予　　　　防

0歳から100歳までどんな学びの環境を保障するか

どんな大人を育てたいですか？

あなたは全ての子どもたちのモデルになれる「いい人間」ですか？

自分のように子どもたちが育つといいと思いますか。

長久手市の子どもたちのうち、何%の子どもが
自分と同じような人間に育つと、長久手市はいい地域になりますか？

子どもは大人を見ている
教員やテレビに出てくる有名人以外の地域の多様な普通の
大人モデルを見る機会があるか？

それなのに、大人は子どもに
教えようとする、育てようとする
孟子：人の患いは
好んで人の師となるにあり

大人たちは、
子どもたちのために、
と言います

体　罰
（暴力）

宿　題
（残業）

しつけ
（強制）

安　全
（拘束）

子育てひろばができて公園デビューがなくなって、コミュニケーションが減ったよ

テレビは世界旅行を可能にしたけれど、外遊びは減ったよ。

自分の価値観で
正しいと思って！

みんな知らずにやっている

車であちこちに行けるけれど、近所の公園に自分の足で行けないよ

他人ごとではない

保育園に預けるから子育ての技術が身につかないよ

美味しい食べ物は増えたけれど、アレルギーは増えたよ

子どもの発達の遅れに合わせて便利グッズができてますます発達が脅かされているよ

1歳児の15%がスマホ依存、Youtube依存だよ。

大人から子どもへの mal-treatment

MAL・・・不適切な、悪い
Treatment・・・扱い、対処

- 社会における子どもへの
  マルトリートメント

- 家庭における子どもへの
  マルトリートメント

虐待と訳されたり、不適切な扱いと訳されたり。
最近やっとマルトリートメントとカタカナで紹介され始めました。

- 子どもの育ちは環境の影響を受ける
- 親や教師は子どもの育ちに関わっている　⇒　**大人にかかるプレッシャー**

↓

- 育てた人が問われる。まるで成績評価のように比較する、される。
- できる限り、人よりいい点数を取りたい。
- 自己肯定のために、ほめてもらわないと不安。
- 失敗できない。
- 子育てや教育の成果は、子どもの進学や就職、豊かな生活で評価される。

子どもへの熱い想いと期待＋発達に関する無知や誤解
and/or
自分の生活で手一杯な状況
↓
子どもへのエデュケーショナル・マルトリートメント

子どもを
良く
育てた

教育熱心

↓

育てなければ
ならない

教育虐待

不許複製・無断転載　©一般社団法人ジェイス

子どもにかかるプレッシャー

- 発達の阻害
- 体験の剥奪
- 強要
- 否定
- 欲求過多

それなのに

他者より「いい子」であることを要求される
成功をめざす（OECD・文科省）

学力をあげること
思考力を身に着けること
きちっとすること
学校に入ること
就職すること
スポーツができること

立身出世
競争・成功
経済的安定

でも大人は幸せそうじゃないよ
ウソついてるし

無理でしょ！

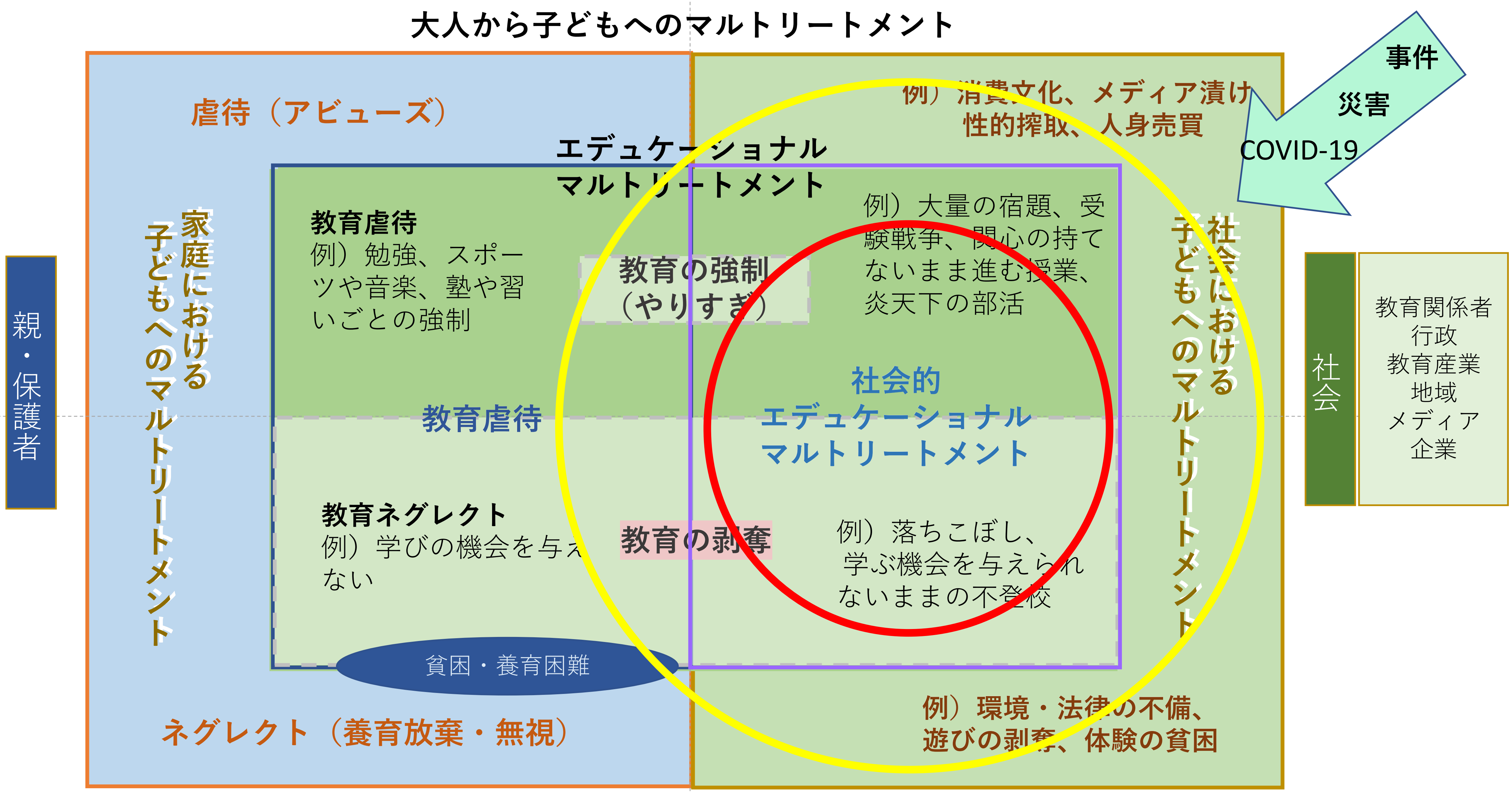
ゲームクリエイター
ユーチューバー
手っ取り早く
かっこよく見える仕事

ディス
エンパワメント
（どうせ無理と思わされること）

国連子どもの権利委員会勧告

不登校、退学、ひきこもり、
精神障害、うつ、自殺
社会的自殺（非行・犯罪）

不許複製・無断転載　©一般社団法人ジェイス



不許複製・禁無断転載　©武田信子

どうして、エデュケーショナル・マルトリートメントが起きるのか。

がんばらないと、勝てないよ！立身出世しないと生活できないよ。

子どもの商品化

←子どもの将来が心配

子どもに言いたいことが言えていたら！！

勉強・スポーツがんばれ！！
それ以外のことをする時間は？
　体験の剥奪→体験の貧困
　関係の剥奪→関係の貧困

だから、今は我慢しなさい→
　学校行けない　20万人不登校
　死にたい・・・500人自殺

ディスエンパワメント
やりたいことができない
どうせ無理

©武田信子

子どもへのマルトリートメントはいつの時代にも起きる。

養育機能が果たせない親たち

社会状況（児童労働、戦争、働きすぎの父親、貧困・・）

⇒現代の日本では？

教育をめぐる過当競争　やりすぎな状況

エデュケーショナル・マルトリートメント

が発生している。

マルトリートメントの変化

ベストセラー

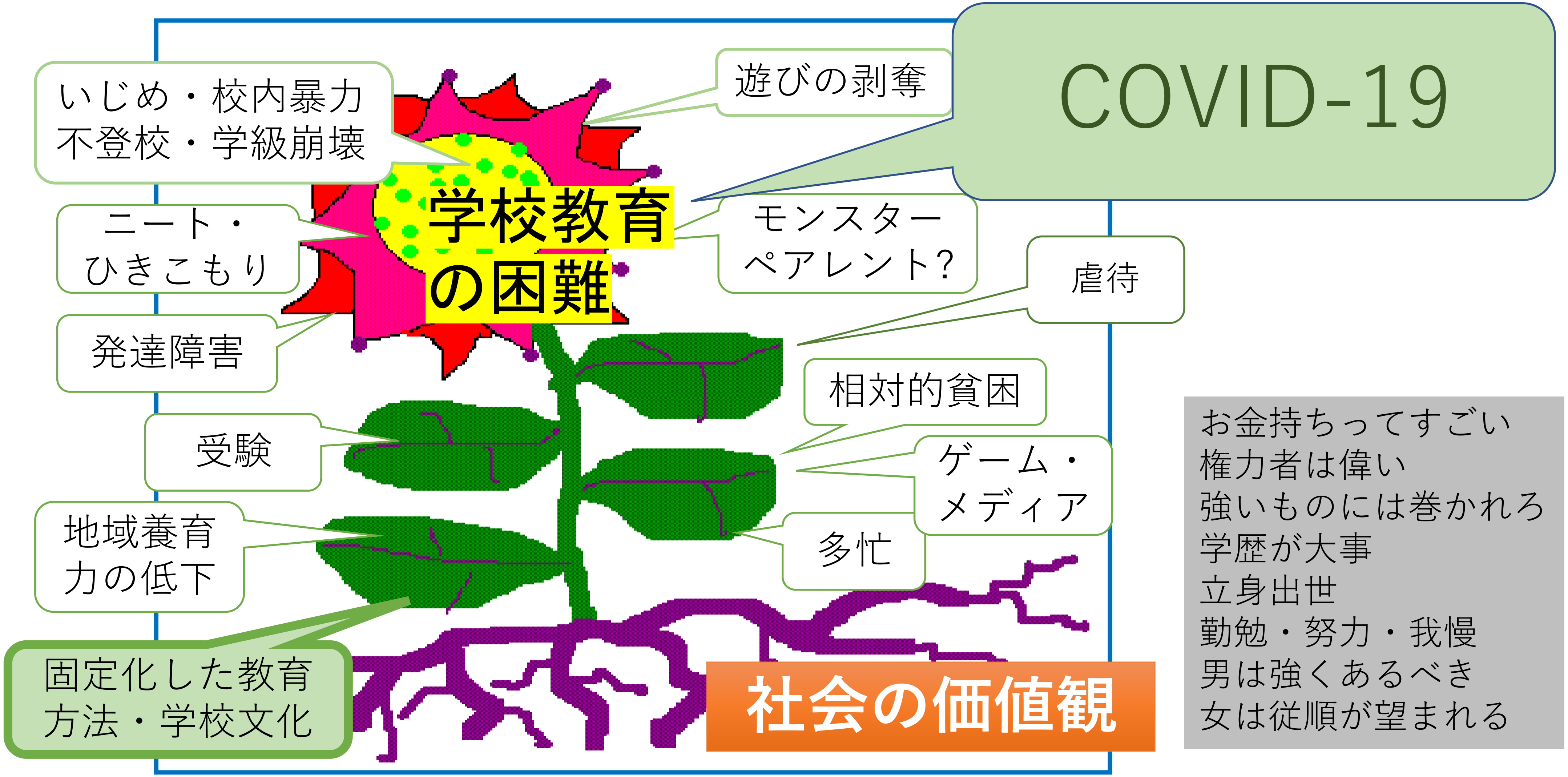
ウワサの保護者会

あさイチ

子育てにおいてマルトリートメント
（不適切な扱い）
が起きている！
<u>**と気づかない日本人、が、気づき始めた？！**</u>

国連子どもの権利委員会からの勧告を
よく検討してみよう。
1998年、2004年、2010年、2019年

子どもをめぐる問題の根本的な原因の分析



お金持ちってすごい
権力者は偉い
強いものには巻かれろ
学歴が大事
立身出世
勤勉・努力・我慢
男は強くあるべき
女は従順が望まれる

勉強>生活　⇒　体験の社会的剥奪

- 生活体験の剥奪
- 遊びの剥奪
- 関係の剥奪

- 過剰な刺激
- 過剰な情報

大人による剥奪・阻害の自覚はあるか？
必要な体験は何か？
補うサプリメントとしての体験でいいか？
体験を支える環境は？
自分にできることは何か？

〇〇で身に付く力をリストアップして、
学校で、子どもたちに不足している力を補おう
見える化・言語化して「提供しよう」
問題に気づいた大人たち、の知る範囲の子どもたちへの部分的対応

子どもたちの生活、地の部分の痩せはどうする？
⇒地域の日常生活の中で身につくもの

心身が自然に育たない環境

今の日本はこどもの育ち＝遊び＝学びに
今までとは異なる支援が必要になっている。

マルトリートメント

大人が子どもを虐待しなくても済む社会へ

１．アビューズへの対応→コミュニティベースの子育て
（親はなくとも子は育つ　長久手市中の人が必要）
２．マルトリートメントへの対応→市民の価値観の転換
（国連子どもの権利条約）

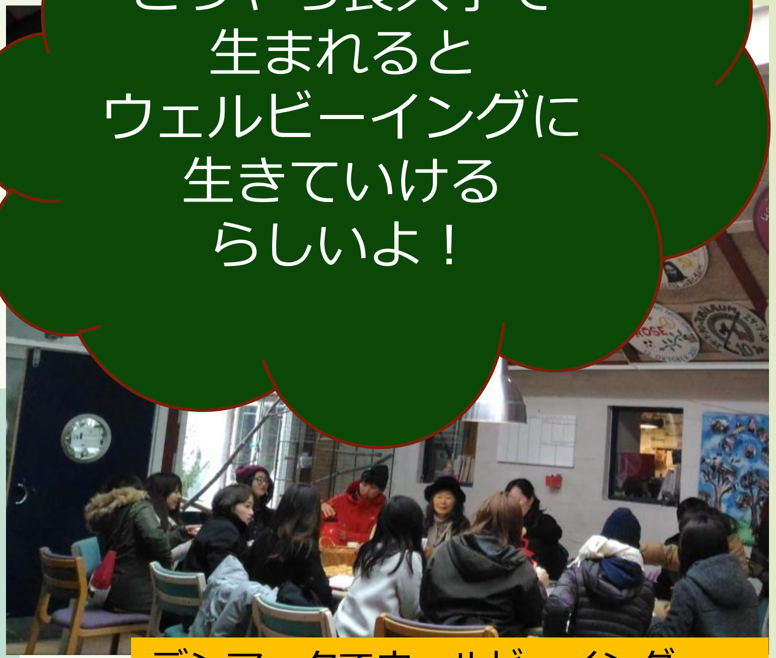
生まれた国が違うと、
子どもの幸せが違ってしまうの？
なぜ？それでいいの？

どうやら長久手で
生まれると
ウェルビーイングに
生きていける
らしいよ！

世界幸福度ランキング（World Happiness Report 2020）

1位 フィンランド
2位 デンマーク
3位 スイス
4位 アイスランド
5位 ノルウェー
6位 オランダ
7位 スウェーデン
8位 ニュージーランド
9位 オーストリア
10位 ルクセンブルク

黄色は北欧5か国



デンマークでウェルビーイング、
対話、民主主義を学ぶ日本の大学生

子どものウェルビーイング（心身の健康）
ユニセフレポートカード１６
生活満足度の高さ＋自殺率の低さ

北欧は一桁
日本は60位前後

リフレクション

長久手の子どもたちは毎日何を学んでいるか？

どこでどう育てるか。今、何を学んでいるか。
体と脳と心に何を身につけているか。

学校　地域　家庭

子どもたちの生活を
3つの場（家庭と地域と学校）
3つの観点（体と脳と心）で、
24時間で、とらえる

何が欠乏しているか。阻害・剥奪されているものは何か。

長久手市の学校における育ちのあたり前を、海外の学校教育を参考に「体と脳と心の発達の視点メガネ」で疑ってみよう。

- 評価しない。比較がない。だから競争がない。
- 宿題がない。塾がない。勉強は学校で身につけるもの。先生は生徒の学びの責任を負う。
- 低学年2担任制で、生活面を支える専門家（スクールペダゴー）がいる。
- 自主的降級や自主的進級がある。その子どもに合った教育をすることがいいことだから。
- 学校選択ができる。基準は自分の子どもに合っているかどうかであって、偏差値や進学率ではない。
- 基準を満たせば、誰でも学校の設立ができる。勉強の中身の縛りが緩い。
- ホームスクーリングやオルタナティブスクールがある。
- 異学年合同授業。自分たちで学ぶ形式の授業。先生はファシリテーター。
- 長期休みを自由にとっていい。
- 高校卒業後、すぐに大学に行かない。大学は無償＋生活費8万円。
- 大学入試がなく希望すれば入れるが、ついていけなければ落第。
- 3年間で100の課題に自分で取り組む。
- 自分のつきたい仕事に直接役に立つ実践的授業（専門学校）。
- 先生になるために、教員採用にあたって、子どもと接した経験が評価される
- 校長は公募で、父母によって選ばれる。

長久手市という地域における育ちのあたり前を「体と脳と心の発達の視点メガネ」で疑ってみよう

長久手市の一般家庭における育ちのあたり前を「体と脳と心の発達の視点メガネ」で疑ってみよう

どういう地域環境に住めば、
ウェルビーイングになれるのか。

憲法第25条
最低限度の
文化的生活の保障

住民の
ウェルビーイング

知識

技術

経済的安定

価値観

人間関係

子の育ちを支える社会をつくる

- 支援する･されるの関係ではない社会
- いつの間にか子どもが育つ街
- 心理的に安全な人間関係
- 子の育ちを皆が支える
- 家族だけに閉じない人間関係

地域の資源をフル活用する（今あるものを再発見し、使いこなせないか考える）

- 動けない人は、楽しく支援させてもらえる対象かもしれない。
- 怒りっぽい人は、自分を鍛えるリソースかもしれない。
- 落ち葉は、体を動かす理由になるかもしれない。

自然や地域（コミュニティ）の重要性

- ドーナツ現象
- 都会の周辺地の急激な開発と人口増加による地域文化の崩壊
- 親たちの上昇志向
- ⇒子どもたちの問題の多発
- ⇒さらに親たちは子育てに必死になり、
マルトリートメントが起きやすくなる。

具体的なアクションの実践例：子どもの成長を考えた街づくり

- 秋田の子育て総合コーディネーター養成　・茨城のコミュニティワーカー養成
- 山形における福島の避難者支援　・三鷹市　星と森と絵本の家　プロジェクト
- 学校建築を変える　校庭を変える　・東京都練馬区　民営の区立公園子どもの森 by PLAYTANK
- トロントの貧困地域のコミュニティ開発　・フェルゼンの全員参画のまちづくり（15年後の社会）
- デンマークのペダゴー（対人援助職共通の資格）・ノルウェーの犯罪者の更生　平和学の考え方
- オランダの教育改革（「学校創設の自由」「学校方針の自由」「学校組織の自由」）
- 「子育ちのための社会関係資本の再生に向けた住居・道・街区人がつながりの中で、子どもが育つ空間とは？」セミナー　2022年2月7日（大妻女子大学　木下勇研究室）より（文責　武田）
- ウルス・マウラー氏　Hannes Meyer 氏のアイデア　Eigenstrasse /Heimatstrasse@Zurich　1970年代
  様々な年齢の子どもが本当に必要とするものは何か。偶然に任せず100年後の森林や公園のある居住空間を作る。
  Erlenmatt-East @Basel
- カティ・ランドジーゼル氏　ミュンヘンのコーポラティブ・コレクティブハウス　Ackermannbogen
  社会関係資本の獲得　計画への子ども・若者・住民参加。子どもたちだけで安全に動き回れる空間・環境整備。
  家からすぐに遊びに出られる、世代を超えた交流が起きる設計。パブリックmeetingスペースとしての道路、
  ニーズに応じてスペースを変える名のない様々な場、一時的交通遮断の認可。

みんなに気づいてもらいたくて、
誰かに見つけてもらいたくて、
「やりすぎ教育」を書きました。

おわりに

本日はいろいろな観点を上げました。この中から、学校教育を考えるのか、家庭教育を考えるのか、地域教育を考えるのか。ミクロ・メゾ・マクロのどこを誰が担うのか。できることは限られるので、徐々に焦点を絞って具体化していく必要があります。

問題は大きいので、どこから取り掛かってもいいのですが、いずれにせよ、自分たちの持つ価値観を振り返って、エスピン・アンデルセンのいう福祉レジームの三類型「自由主義」「保守主義」「社会民主主義」のどこをどう目指すのか、その担い手をどう育てるのかを考える必要があるでしょう。

デンマークでは、19世紀に、国家の再起をかけて、国王がグルントヴィの進言を受け、実践に繋がる学校教育の義務化を行ったこと、対話による民主主義を国民に浸透させたことが、今の国民の生涯学習の保障や国民のウェルビーイングな感覚に繋がりました。